

い面もあります。しかし、アメリカにおいて今我々が求めているのは、この4つの組織の自発的な協力であると思われます。

ひとつ補足したいことがあります。2ヶ月前、レーガン大統領によって第2次野外レクリエーション資源調査委員会（ORRRC）が、15名の委員で発足しました。これは、現在から西暦2000年までの間に、どれだけ野外レクリエーション需要があつて、どういったものを政府が提供していけば良いかということ調査する委員会です。今後、21世紀へ向けて政府と民間の所有するレクリエーション資源の有効利用と2つのセクターの協力について考えていくのが主たる目的です。奇しくも次の講演をされるリード博士が、25年前の第一次のORRRCの主要メンバーであつたということで、非常に感慨深いものがあります。

本日は、御招待に預り、非常に印象深い思い出となりました。皆様に感謝する次第です。ありがとうございました。

## 2. アメリカにおけるレクリエーションスペース計画の動向

講師 Leslie M. Reid, Ph.D.  
(テキサスA&M大学)

訳 諸星 裕 (ミネソタ州立  
セント・クラウド大学)

ハートソー博士も言われましたが、我々と同じ分野の職にある日本の皆様とこのような機会を持つことができ、本当に感謝しております。

私が勤務しておりますテキサス A&M 大学は、100年ほど前のことですが、もともとは農業とエンジニアリングの大学（農工大）でした。20～25年ぐらい前から総合大学となり、人文科学や芸術といった分野へも拡大されました。私は林学の出身ですが、こういった大学のバックグラウンドにより、エンジニアリングの分野に入り、さらにそこから公園・レクリエーション関係の分野に入ってきました。このようなわけで、まず、自然資源の方面の話をしたと思います。次に、ハートソー博士と同じようにレジャー・レクリエーションの社会的な方面の話に移っていきしたいと思います。

御承知のように、アメリカは日本に比べて非常に若い国であり、たかだか350年ぐらい前に、ヨーロッパから移住した人々がやって来ました。そこはまだ自然

が手つかずの状態、すなわちウィルダネス（原野）の状態に残っており、この中からアメリカ人は文明を発展させていきました。ですから、アメリカにおいては、レクリエーションとはサバイバル（生存）のための活動に源を発しているのです。たとえば、速く走るとか、うまく弓矢が射てるなど狩猟の手段からレクリエーションが生まれてきたのです。初期の開拓者たちは、お互いを守るために小さな村をつくり、その村が集まってやがて都市が形成されました。そこでは、レクリエーションは、だれにでもごく身近かにありました。というのも、すぐ街から外に出れば、ウィルダネスが広がっていたわけであり、レクリエーションはいくらでもできました。当時のレクリエーションというのは、非常に個人的なものでした。組織だって、集団で行うものではなかったのです。今回の中国旅行で良く見掛けたものに大極拳がありました。これは個人的なレクリエーションでした。これはアメリカ人の悪いクセと言えるかもしれませんが、何でも組織化し、ルールを作り、設備を作り、いろいろ系統立てることがアメリカ人は好きなのです。

初期の小さな村々がだんだん大きくなり、都市化してきますと、先に述べたようなレクリエーションも行うことが難しくなってきます。このような状況の中で、レクリエーションのための空間（オープンペース）の確保が都市計画において非常に重要であるという認識が生まれてきました。

過去、我々の公園関係の専門分野には、4つのレクリエーションの形態、あるいはシステムがありました。

まず、第一のパターンは受動的（passive）なシステムであり、庭園などがこれに含まれます。一週間ほど前、私は香港で非常に美しい水辺公園を視察してきました。そこには、「OK」「スポーツ禁止！」というような規則がありました。また、「機械を使ったおもちゃを持ち込むな！」という規則もあり、持ち込んだ場合には14日間の留置場拘留ということでした。

第2のシステムは、活動的（active）なシステムで、これには運動場とかレクリエーション施設、スポーツ施設があります。

第3のシステムは、自然の中の大きな公園であり、これにはハイキングとかキャンプのための公園施設が含まれます。

第4のシステムは、スタジアムという言葉を使いましたが、これはスタジアムの複数形です。これは、ど

ちらかという観客として見るということを入れて計画したものです。

この50年ぐらいの間のアメリカのレクリエーション施設というのは、以下のように2つの大きな種類に分けられると思います。

1. 近隣

- a) 公園・レクリエーション課
- b) 非営利団体

2. 遠隔地

- a) 州政府
- b) 連邦政府

ひとつは、家のそば、住んでいる所のすぐそばという分け方です。これがさらに2つに分けられます。そのひとつが、市町村の公園・レクリエーション課が計画してつくったレクリエーション施設です。先ほどの話にありましたように、各市町村には公園・レクリエーション課があり、その施設は税金でまかなわれています。もうひとつの種類は、先ほどハートソー博士が言われたような非営利団体（YMCA などですが）のレクリエーション施設です。

先ほどの大きな分け方のもうひとつの種類は、隣り近所ではなく、遠い所、離れた所にあるレクリエーションの施設です。このうちのひとつは、日本で言いますと、県立の公園とでも言えると思います。これには、地域の公園、都市の公園、州の公園といったものがありますが、大規模なものは、実際に人々が住んでいる所から離れた所にあります。家から離れた施設の2番目は、連邦政府が関わっているレクリエーションの場です。

1970年代になってから、連邦政府は様々な補助金を出すようになりました。これによって、各市町村の公園・レクリエーション課がレクリエーション施設、事業の企画を促進する動きが出てきました。こうした動きは1980年代になって、さらに本質的な変化を生じさせました。1973年から1978年までのオイルショック以来の一連の問題により、エネルギー関係の支出が非常に上昇し、そのために、インフレが非常に激しくなりました。この結果、レクリエーションのために使えるお金が非常に制限されるようになりました。この結果、各市町村の公園・レクリエーション課は、参加者（市民）に対して「参加費を出してくれ」という形で、お金を集めなければならなくなりました。今日、アメリカの市民は、レクリエーションをお金で買っていると

いうことになるわけです。

これらの結果、大きく分けて2つの目立った現象が見られるようになりました。

ひとつは、営利企業がレクリエーションの分野に進出し、レクリエーションを供給することによって利潤を得るということが可能となりました。そして、このようなことはかつてあまり見られなかったのですが、最近非常に増えてきました。この例としては、ディズニーランドとか何かひとつのテーマを持って運営されるテーマ公園といったものがあります。

そして、2番目のものが、公共団体と私企業とのジョイントベンチャーで、お金を出し合って事業を行なうという動きです。私が住んでいる街の例を4つほどあげたいと思います。私の街には市営のゴルフ場がありますが、その運営は American Golf Corporation（アメリカゴルフ会社）という私企業に任せています。市の公園についても、植林、樹木の伐採、ゴミの収集などすべて市がやるのではなく、契約を結んでいる企業に任せています。市のプールは、市が建設したのですが、現在、その運営は企業に任せています。市のレクリエーション課が実施している様々なプログラムを見ても、参加費のかかるプログラムが非常に増加していることがわかります。例えば演劇、芸術関係のプログラムは、参加費を取るプログラムばかりです。

営利企業が運営するフィットネスクラブも増えています。以前は、大人だけが対象でしたが、最近では家族ぐるみとか親も子どももこの対象となっています。両親が働いている間、子どもたちをそこで託児所のように預り、別途にプログラムを実施するといったことも行なっています。

さらに、マンションとかコンドミニウム（集合住宅）のような所では、プール、体育館、テニスコートなどを持っています。そしてこういった施設を管理、運営する常勤のディレクターを擁しています。これまでは、そこに住んでいる住民だけを対象に、ディレクターがプログラムを実施していましたが、最近ではテニスをはじめとして他の住民にも提供されるようになってきています。そこで実施されるプログラムは、もちろん、主としてそこに住んでいる住民が対象です。

また、ゴルフ場のまわりに家を数多く建て、そのゴルフ場を中心にしてひとつの共同体を形成するという動きがあります。どこにでもゴルフ場があるわけではないので、こういった形はどこでも可能であるとは

言えません。また、アパートなどでは、このようなレクリエーション施設を後から持ってきて、先ほどの例と同じように、あたかも自分たちのレクリエーション施設の周りに一緒に住むという居住形態が生まれています。ここで一番大事なことは、Open air（青空空間）ということなのです。

野外空間は、非常に重要視されており、それを最大限に利用するために、最近では、ジョギング専用の道路もできております。また、「フィットネス・トレイル」というものがあります。これは、しばらく走って、あるポイントで定められた運動をし、またしばらく走って次の運動をするというような、各種のプログラムをう盛り込んだ走路です。こうした活動ができる施設がどんどん増えています。ブラジルのリオデジャネイロや香港、東京にもこのような施設があります。

南アフリカの例について見てみますと、もともとドイツから来たものですが、トリム・ジムという運動が起こっております。そこでは全国組織としてのトリム・ジム協会も設立されています。フィットネスのための室内体育館、フィットネス・トレイルなど様々なフィットネスのための活動をやるように整備されたコースがあります。ここでは、市がディレクターを一人雇い、参加者が来ると、健康診断やどうい運動をどのくらいやったら良いのかを決定し、参加者はこれに従って運動を行なっています。そして、毎週、こうしたチェックが行なわれています。参加者にとって都合が良いのは、ディレクターの指示通りに運動を行なうということです。ですから、自信を持って取り組むことができるのです。自分の判断ではなく、専門家の判断に基づいて運動を行なうので人気があるのです。

ところが、残念なことにこれはアメリカではできません。というのは、アメリカでは何かトラブルが発生すると告訴され、裁判沙汰になってしまいます。もし、ディレクターが5回やりなさいと言って、参加者が5回やったところで心臓マヒが起きたという、確実に告訴されます。すぐに裁判になってしまうので、こういったことはアメリカではなかなかできません。

アメリカでは、日本から随分多くのことを学びました。その学んだ重要なことのひとつに、企業が行なう従業員のためのレクリエーションというものがあります。会社の中にこうした施設が作られ、従業員が勤務時間内でそうした活動ができるということがアメリカでも始まりつつあります。また、アメリカ人はダイエッ

トのことを随分気にしています。できるだけ脂肪分をとらず赤い肉を食べるといった現象も起っています。何よりも、タバコを吸わないということが、人々の最も気にしているところです。

私は、林学の出身ですが、この分野に入り、今になってようやく本当にわかってきたということがあります。それは、健康な体には健康な精神が宿るということです。このことを認識しながら、日本の皆様方も自分の研究に励まれるようお祈りします。

### 3. 質疑応答

（質問） 会社の中で、レクリエーションを担当している者ですが、日本の企業からレクリエーションについて、アメリカの人々が学びとったということですが、具体的にはどのようなことを学んだのでしょうか。

（リード） アメリカの企業においては、心筋梗塞とか心臓発作という症例が非常に多いのです。企業にとっては、このような病気で死んだ人のかわりに新しい人を雇って新たな訓練をする費用の方が、現在働いている人に対して健康管理の援助をする費用に較べてはるかに高くつくのです。このような意味で、日本の企業のように健康を獲得するために投資するというのが、アメリカではポピュラーになってきているのです。

（質問） アメリカではレクリエーションに大変お金がかかるということですが、具体的にどのようなところでお金がかかるのでしょうか。

（ハートソー） アメリカには料金の基準というのがあり、値段の高いものから無料のものまで様々です。安い、あるいは無料の活動としては、ジョギング、エアロビクス、公園でのバーベキューといったものがあります。また、極端に高い活動も数多くあります。最近、レクリエーションには大変お金がかかるようになったとお話しましたが、市町村の公園・レクリエーション課では、税金で建設された施設についても、参加者から実費を徴収するということが盛んになってきています。この典型的な例がゴルフコースです。ただし、日本ではグリーンフィーが100ドルもするそうですが、アメリカでは8～9ドル、リード氏の居りますテキサスでは5ドルです。

料金の高いものと安いものの中にある種目で、一番ポピュラーなものが水泳です。これも住民から運用費をとっています。最近では、地域にあるコミュニティプールが、家族を対象としたシーズン券を発行し、

非常にポピュラーなものとして売られています。

少しばかり例をあげたいと思います。私の少年時代、野球、アイスホッケー、ソフトボールなどすべての種目が無料でした。野球について見てみますと、私の時代では、一度も料金を払わなかったのですが、現在ではチームを結成してリトルリーグに登録する料金が150ドル、それに一人一人のメンバーが払う料金が3ドルになっています。さらに、今年(1985)になりますとチームの登録料が300ドル、メンバーの負担が6ドルと2倍になっています。チームの登録料についてはスポンサーがついている場合もあります。たとえば、ビール会社のパドワイザーなどがTシャツや帽子を配っています。親の方にとってはこうしたことは予想もしなかったことで、市長にクレームをつけるといった一幕もありました。このような例は年々増えてきています。

また、現在の潮流として、レクリエーションの質というものが問われるという傾向があります。たとえば、ある市のリトルリーグの野球場の施設が悪かったりすると、別の市のリーグに加入するといった動きも出てきています。つまり、レクリエーション経験がより満足し得る方向に動いています。レクリエーションの中にもクオリティ(Quality)という考え方が入り込んできているのです。

(諸星) 補足ですけれども、こうしたことの解決策として多くの市では、市の住民以外の人は参加費が倍額となるという傾向にあります。たとえば、ソフトボールの利用料は5ドルですけれども、チームのメンバーの中でもその市以外の人は10ドル払わなければならないという例もあります。アメリカのパーソナルレクリエーション(特に公園に関係するものは、固定資産税がかかります。そして、これは年々上昇してきましたが、近年ではもうこれ以上上げられないというところまで来ています。歴史の新しい西部地区ではまだ多少の余裕があるようです。

税金の援助が打ち切られると、どこでもレクリエーション関係のものは衰退気味になります。たとえば1978年のカリフォルニア州での税金政策の変更により、固定資産税が増大し、カリフォルニア州のレクリエーション課の約 $\frac{1}{3}$ がなくなるという大打撃を受けました。

レクリエーションにお金がかかるようになった理由はもうひとつあります。レクリエーションの参加者が

増えれば増えるほどそれにとまなう障害も増え、これによって告訴、裁判沙汰が増えるという理由です。これを補うためにも利用料、参加料が引き上げられているのです。日本では考えられないことですが、アメリカでは人と人がケンカをすればすぐに告訴をもってゆく程で、そのために弁護士の数も多いのです。

さらに、お金を高く取れば取るほど、告訴された時に払わなければならない補償金の額が増えるという傾向があります。政府が行う公共の福祉に関するものには無料のものがあります。この際、もし政府側に手抜きがあったとしても告訴をしてはいけないという昔からの慣例があります。一方では、商業的な色彩を持つものも政府の事業の中にあります。料金を取っている場合、何か事故が起きた時には、「金を払っているのに安全を保証しないのはどういうことだ」ということで、補償金を支払わなければならない。

(質問) 都市の問題とレクリエーションについておたずねします。都市の人間が自然に接するためには2つの方法が考えられます。ひとつは都市の外に出て自然に触れること、もうひとつは都市の中に自然を取り入れることです。この2つの側面について、どういう方法で自然を取り入れていったら良いのか、良いアイディアがあったら教えて下さい。

もうひとつ、関連した問題として高層住宅とレクリエーションの問題について質問します。子どもたちに対して、高層住宅という居住形式は、悪影響を与えているのではないかということで、スウェーデンなどでは大きく取り上げられています。アメリカでは、行政および民間の団体が、高層集合住宅に関してどのような取り組みをされているのですか。

(ハートソー) アメリカの歴史を振り返ってみますと、プレイグラウンド運動、あるいはセントラルパークといったものは、すべて都市の中から生まれてきました。このような都市公園に対する考え方は現在も脈々と受け継がれています。このような中で、現在、2つのことがほとんどの大都市で行われています。ひとつは、州政府が景観保護のために非常に広大な土地を購入し、そこを都市公園にし、都市環境の向上に努めていることです。もうひとつは、各市町村の公園・レクリエーション課が、スポーツ施設や各種のレクリエーション活動のための土地を購入していることです。

これらのことは、公共レクリエーションが世界で最初に発足したアメリカではごくあたりまえの現象です

し、行政レベルでも実行されています。アメリカでは、全米レクリエーション公園協会というのがあります。そこでは、公園の設置基準を設けており、100人の人口につき1エーカーの公園用地を確保するという基準があります。日本では、風景を楽しむための庭園が多いようです。こうした庭園から受ける恩恵は計り知れないと思いますが、今後は、レクリエーションの中でもスポーツなどのアクティブな積極的な目的を持った施設づくりが望まれてくるのではないのでしょうか。

私どもは中国に行って、非常に大きな公園をいくつか見てきました。それに較べて、日本という国は、盆栽や庭園という形で、自然を凝縮して楽しむという非常に優れた習慣が残っていると思います。

(リード) 高層集合住宅についてお答えします。メキシコ系アメリカ人が多いテキサス州では、彼らの生活の質が非常に悪いということで、政府が高層集合住宅を建設しています。風紀が悪いわりには非常に自然を愛し、心の優しい人々なのですが、いったん高層集合住宅に入居すると、自然との接触が無くなり、スラム化してしまっています。これに対する解決方法はまだわかっていません。世界中のいたる所、たとえばブラジルなどでも、高層集合住宅に関連して、物をこわしたり、スラム化によって生活の質が落ちるといったことが大きな問題となっています。

自然と人間との調和、特に都市における自然と人間の調和については、ここにお集まりの日本の若い皆様方にその解決方法を考えて頂きたいと思います。挑戦と申しましょうか、それをお願いしたいと思います。(諸星) 私の専門は、犯罪とレクリエーションですけれども、住宅が高層化して、それが進めば進むほど少年非行が増えるという事実があります。「沈黙の空間」という本を書いたホールという人類学者がいますが、彼がかつて参加してデザインした高層集合住宅がシカゴにあります。そこでは隣の家が良く見えるようになっている非常におもしろいデザインです。そこでは、犯罪が減りました。その理由はよくわかりませんが、おそらく、高層化すると隣が見えない、すなわち疎外されているということが原因だと思われます。

(質問) 薬物の乱用といった青少年の問題が拡大しているということですが、青少年の公共心とか公德心を育てるための教育的配慮を持ったプログラムとしては、具体的にどのようなものがあるのでしょうか。

(ハートソー) 様々な努力が為されています。連邦

政府レベルでは、薬物管理局(Drug Enforcement Agency)が中心となって対応しています。さらに、公共団体、私的な奉仕団体が協力して薬物乱用とアルコールの問題に対処しています。最近では、若い人たちのこうした乱用が大きな問題となっています。

テレビのCMで、ビールをうまそうに飲んでいるシーンがありますが、これはビールを飲むこと自体が優雅であるということを強調したものです。ところが、これに対して、民間の方からは、強力な抗議が出ています。こうした圧力がどんどん広まってきています。

(司会) 時間も参りましたので以上のようなところで質問を打ち切らせて頂きたいと思います。お二人の先生には大変有意義な講演をして頂きまして、本当にありがとうございました。